

ワークシートの分析

調査研究部では、ワークシートに設けた、

- (1) 授業の振り返りを記述する欄
- (2) 目指す議論する姿に基づいた自己評価の欄

の2点について、初期（6月～7月）と後期（12月～1月）の変容を追った。その際活用したのが、調査研究部が示した「変容の視点」、「ワークシートにおける記述の分類と例」である。

「変容の視点」

「ワークシートにおける記述の分類と例」

【児童の変容のみとる視点】

A 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。	1	道徳的価値にかかわる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から、考えようとしている。
	2	自分と違う立場や考え方を理解しようとしている。
	3	複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。
B 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。	1	読み物教材の登場人物を自分自身に置き換えて考え、自分なりに具体的なイメージして理解しようとしている。
	2	現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。
	3	道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めている。
	4	道徳的価値を実現する難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

【ワークシートにおける記述の分類と例】

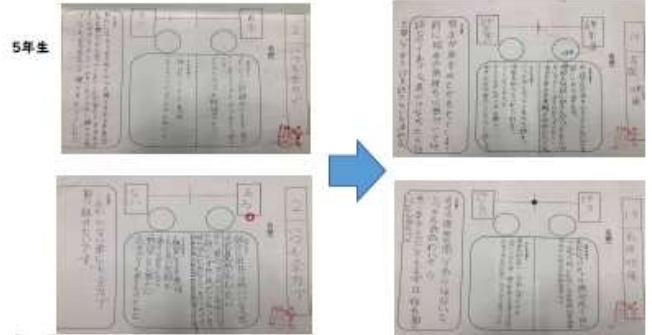
記述の分類	ワークシートに表現される例	
	(イ) 考えや思いの記述	(ロ) 理由の記述（なぜなら～）
A1 様々な視点からの考え	(登場人物)は〇〇だから、～したと思う。また、□□だから、～したのだと思う。	左の記述に理由が書かれる。
A2 異なる考えの理解	〇〇人の人の意見から、□□という考えもあると知った。 〇〇人の人の意見もたしかにそうだなと思った。しかし、やはり自分は□□だと思う。	
A3 対立する場面での行動	〇〇という行動もあるのだと思った。	
B1 自己関与	自分だったら、〇〇だと考える。(行動する。)	
B2 自己の振り返りや変容	これまでの自分は〇〇だった。これからは～	
B3 議論による価値理解	今日の学習を通して、□□ということを知った。	
B4 人間理解・人間的な関さ	(登場人物)は〇〇だと思う。でも自分は、～	

参考資料『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』東洋館出版
永田茂雄編（2017）『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所

変容の仕方として大きく4種類みられた。

- ①いくつかの視点で書いている。
- ②自分の意見について、理由を明確にしている。

【高学年の分析】



【分析】

- ・自分の意見と友達の見意見をまとめるようになった。
- ・「心のものさし」を通して、具体的に自分の考え方を表現できるようになった。
- ・ふり返り、「〇〇だったらこうする」という多面的な意見を述べられるようになった。



【分析】

- ①初期は1つの視点から書かれたものが多かったが、後期では複数の視点から書かれたものが多くなった。
 - ②自己評価の項目では、「よりよい考えは何か、考えられたか」の評価の向上が見られる。
- 以上2点から、本校の目指す児童像、目指す議論する姿に向けた取組に一定の成果があったといえる。

ワークシートの振り返りの欄から、多くの学年において肯定的な児童の変容をみとることができた。そして、その変容は、本校の学校研究における目指す児童像「自分との関わりを通して価値について主体的に考え、多様な感じ方・考え方と出会い交流し、よりよく生きようとする児童」や、発達段階に応じて目指す議論する姿へ近づいているといえるものであった。

このことから、本年度示した「ワークシートにおける変容の視点」、「ワークシートにおける記述の分類と例」、そしてワークシートの例は、児童の変容をみとるうえで、ある程度の有効性があると考えられる。

各ブロックの分析